

三 二八 受信一八六〇〇 了了一八四〇 電一三三七二

水作機路〇



● 紀伊防備隊。大阪、神戸各在勤武官
● 海上護衛總口。三海上護衛隊

● 大阪警備府

機密第二八一四四七番電

發 參謀長

一、敵機ハ二十八日下關海峽西口六連島蓋井島周邊ニ極氣機雷ヲ敷設セリ

二、今後對方面ニ對スル敵ノ此ノ種ノ攻撃ニ對シ掃海準備ニ遺憾ナキヲ期セラレ度。

通一五〇八三

呂一Bケ五

B

阪警

長井(金 森)

昭和廿年三月廿九日

人

三二八 受信一七二〇 譯了一八五五 電一三二二一
譯始一八一五 航作本概〇

至急

大崗山司令部



第五航空艦隊

聯合艦隊司令部・新竹航空基地

機密第二八一四五〇番電

654

第一航空艦隊參謀長
第五航空艦隊參謀長

準備ノ都合アリ當方面基地ヲ使用スル神雷攻撃ノ企圖アラバ知ラザ
レ度尙櫻花ノ現狀左ノ通(組立機數分解機數ノ順)新竹一八、四、
他ノ輸送中ノモノ二二(高雄三〇、一二)
通一五一七 呂一Rケ五(七五〇五KC)一AFP 鈴木(木下)

昭和廿年三月廿九日

昭和廿年參月廿九日

三二八 受信一八五〇 譯了一九一五 電一三三三 三四四二 一〇九 作 概



機密第二八一四五三番電 三分ノ一、二三

千防戰鬪概報第一一〇號 (三月二十七日)

第一次〇七四五B一三四・二機幌筵島ルイテヤツ附近投彈後東方ニ避

退第二次〇九四五B一二五 四機占守島側トウ東岸來襲海中ニ爆彈投

下後東方ニ避退 (第一次第二次共低空ニテ近接電波探信儀捕捉セズ)

第三次〇八五五B一二四 六機八五段二五〇料ニテ電波探信儀捕捉一

〇〇〇高度約六〇〇ニテ占守島ニ長入片岡灣地區ニ約六〇發投彈後

北東ニ避退發射彈數一二種高角砲一五發戰果陸軍戰鬪機ニ依リB一二

通一一五〇八八〇 天三B (B) 一人冷 長井・松沼 (榮見) (一)

五 二機墜破被害戦死下士官兵占守通信隊一海軍施設部工員五名重
 傷士官一名(占守通信隊通信長)工員一輕傷士官一名下士官一名工
 員四名重油タンク直撃弾一發至近弾ニ依ル破孔小數アルモ油量變化
 ナシ其ノ他極メテ輕微天候快晴南東風二米

三
二二八
九
受信
開始
〇〇三三五

譯了
〇一二二二
電
一三三四九

航作
本概
〇

昭和廿年參月廿九日



● 横須賀航空隊

● 航空本部。聯合艦隊口。五航空艦隊口。出水空基地

● 横

領

機密第一八一五一一番電

656

受報者 横須賀航空隊大分分遣隊 宇佐航空基地

機密横領信電令作第七四號航本機密第二七一七一〇番電關聯

横須賀航空隊司令へ大分分遣隊ヨリ臨時魚雷調整班へ准士官以上及高

普別等へ第五航空艦隊ノ協議ニ依ルヲ宇佐空基地へ五〇名 出水空

基地へ六〇名派遣所在魚雷調整班ニ協同セシムベシ。

力

一五三二九

一五三二九

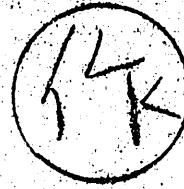
横須賀

高井(川口)

三二八 受信一九四七 譯了二〇四五 電一三三六九 作 衛

緊急

カ、ムラン航空基地



一護衛艦隊P。九三六空P
海上護衛總P。二〇六航空基地。ナトラン航空基地。キノ航空基地
ツトウ航空基地。カツトライ水上基地。一海防隊。一ニ根P

機密第二八一五四〇番電

657

通報 二五飛行團

戰團截報(二十八日其ノ一)

「ヒ」八八才船團直衛〇八〇〇I一〇〇水偵二機一〇二五B二四

一機船團爆撃被害不明同時刻、船團ノ位置「ダブエ」解ノ一二摩

四四連一一〇〇ヨリ一五〇〇迄敵機(P三八B二四B二五延三二機)

ノ空襲(當地方面及船團)頻繁ノ爲直衛ヲ實施シ得ズ。

通一五一九〇 天一Bケ六(一七五九〇K)一〇通

大石(渡瀬)



海上護衛總司令部・聯合艦隊司令部

大臣
局長

至急

吳

鎮

三二九 受信〇一〇一
開始〇一三〇

〇三〇〇

電一三四六四
電一三四六四

作 櫛

昭和廿年三月廿九日

機密第二八一六一七番電

三分ノ六二

戦闘概報（三月二十七日）

二十七日〇九四〇〇「マリアナ」基地B-12九約百五十機ハ倉敷

ヨリ本府管内ニ侵入セリ敵ハ主力ヲ以テ四國南西部ヨリ北九州ニ侵

入北九州航空基地ヲ主目標トシ他ニ少數機ヲ以テ高知足摺崎佐伯附

近メケリテ的ニ爆撃一二四〇頃避退セリ大分基地ハ一〇四五ヨリ一

海一五三五八

呂一〇ケ五

（日）

（一）

吳 森津、水谷（三石）

（一）

658

一四二迄延三七ノ四次ニ巨ル爆撃ヲ受ケ第十二航空廠飛行機炎上六
 機大破一機地上施設損害極メテ輕微人員取死者九（工員）重傷者五
 三二十七日二二三〇ヨリ三二九約六〇機機ヲ書間ノ要領ニ依リ侵入
 下關海峡西口附近六連島蓋井附近及若松港外ニ磁氣機雷ヲ敷設スル
 ノ外

〔電信課註 本電三分ノ三未着〕

人

三二九 受信開始 〇〇三一〇〇 譯了 〇四三六 電一三五五六 作概

至急



大 總 長 臣 海 護 總 長 聯 合 艦 隊 長

機密第二八一六一七番電 三分ノ三

小倉八幡方面ヲ爆撃二十八日〇〇三〇頃避退セリ本府關係戦果被害ナシ二十八日〇九〇〇迄ニ磁氣機雷ニ依ル被害蓋井島附近ニテ汽船一隻機雷室ニ浸水下關防備隊一曳船ハ同隊ノ南西二〇〇〇米附近ニテ誘爆ニ依リ若干浸水若松港外ニテ機帆船二隻沈没日下極力磁氣機雷掃海中ナリ

三捕虜ノ言ニ依レバB一二九八一機ニ一〇〇〇ボンド機雷一二個宛搭載

ト(西軍情報) 電証 本電三分ノ二ニ既配布 呂一〇ケ五) B (吳) 曾出 (吳見)

昭和廿年參月廿九日

659

三二八
作戰緊急

受信
開始二二二一五

了二三〇〇

電一三四五六七

航作概本〇

昭和十一年八月廿九日

作

◎ 指宿、大村各空基地。佐世保防備隊

◎ 佐世保航空基地

海上護衛總隊、聯合艦隊司令部、五航艦隊司令部、遊撃部隊、機動部隊、
呉鎮守府、第一護衛隊、除高雄派遣隊、四海護衛隊、
九五一空、(總空基地、航空隊、含△)

機密第三八三三番電 二分ノ一二

660

九五一電令作第九九號

〇B電令作第五八三號

〇B電令作第四二五號及佐鎮電令作第七八號ノ對潛警戒ハ左ニ依リ
實施スベシ

一 指宿部隊ハ二十八日夜ヨリ二十九日ニ亘リ北緯三一度三〇分以南ノ

日向灘大隅海峽大隅群島ノ對潛警戒掃蕩ヲ強力ニ實施スルト共ニ同
區域ノ直接護衛ニ任ズ。之ヲ爲要スレバ「イ」哨區哨戒ヲ一時弱シス

通 一五二九七〇 才一四(九八三〇) 佐二放
鈴専 (川口)
清水

ルコトヲ得

- 二 大村部隊ハ陸攻ニ機ヲ以テ二十八日夜及二十九日晝間北緯三一度以北五島迄東經一二八度以東海面ノ掃蕩ニ任メ
- 三 佐世保部隊ハ二十八日夜以後擔任ニ三作戦海域哨戒掃蕩ヲ強化スルト共ニ九州ノ北西岸ニ於ケル直接護衛ニ任メ
- 四 佐世保防備部隊ハ二十八日夜以後九州西岸ニ於ケル間接直接護衛ノ萬全ヲ期ス。

和

傍

作	三
戰	二
長	八
A	鹿
B	屋
E	航
J	空
G	基
鹿	地
屋	

● 松山、木更津、香取、松島、谷田部、藤枝、明治、百里原各航空基地
 ● 出水、國分、富高、鹿屋、串良各航空基地

機密第二八一七一一八番電 二分ノ一ニ

發 三AF參謀長

二十八日一七〇〇頃敵機隊聯合數十機南九州ニ來襲セリ九州方面ハ
 移動六五四飛行隊左ニ依リ警戒セシメラレ度

一九州基地着時刻ヲ一〇二〇乃至一五〇〇頃ニナラシム

二全部松山基地上空通過スルモノトシ松山基地ニ於テハ大國方面ニ敵
 艦上機來襲中大型十文字右板ヲ飛行場ニ表示右右板ヲ見タレ場合飛
 一五二三七、一五三三八 自一七ケ五(十八七五)一KFG E 鹿屋、岩田(雨谷)

電報 一三三三一〇
 航作 概〇

昭和四年九月九日

行戦隊ハ松山又ハ岩國基地ニ着陸待機

三、移動飛行戦隊ハ行動後定立ニ使用電波ヲ餘祐ヲ以テ豫報スルト共

ニ鹿屋基地ト連絡スルモノトス

四、戦闘機隊ハ空戦準備ヲ整ヘ移動ス

五、極力九州ノ西側ヲ見テ進入ス。

作

緊急

三二七

受信〇三〇五
譯始〇四〇九

譯了〇五二三 電一三四八四

作 楢

ツドウモ航空基地

西部空襲部隊戰鬪報着信艦所

一海防隊

機密等二八一七四七番電

SAB 戰鬪報第八號三月二十八日

一時一〇一飛行隊零戰八機艦爆二機(ツドウモ基地發着)一二四七

一五〇〇門船團護衛 一四三七頃双發一機ヲ認メタル外敵ヲ見ズ

三送船一左舷小傾斜油ヲ曳キツツハバレラ角南端東岸ニ避泊中ノ外
計十隻異狀ナシ。

通一五四一一 呂一五ヶ五(六二三五)十通

東野(松井)

昭和廿年參月廿九日

662

8 19



三 二九 受信〇三四八 譯了〇三四五 電一三四〇五 作 概
開始〇三〇五

緊 急 第八警備隊



二三根戰術概報着信監所

機密第二八一八二四番電

663

昭和廿年參月廿九日

戰術概報(三月二十八日)

一〇九五五一一〇三五 四發一機「メナド」ニ來襲波止場附近ニ投彈

(九個)後東ニ遁走 被害ナシ

三一二一〇一一三四五 四發一機「ミナハサ」地區偵察後東ニ去ル

三二二七二二四七一一二二五 四發一機「アイルマデイロライ」

「トングダノ」上空ヲ西ヨリ東ニ通過。

通一五四〇五 呂一Bラ一八(六一二三五)〇(二二)通 岩佐(金森)

行

休

局長	二	部長	三
A	B	C	D
E	F	G	H
J	K	L	M

三二八 受信二一〇九 電一三三〇二 航作 概〇

賀空

大分航空基地

海軍省。聯合艦隊口。第五航空艦隊口。佐。博多鎮空

機密第二八一九一二番電

宛 派遣隊長

一、横空派遣隊ノ大分基地派遣ヲ取止メ適宜本隊ニ復歸スベシ
 二、鹿屋發大分經由ノダグラス便派遣ス

通一五二六五 呂一Bケ五(B)横須賀 野木(雨 谷)

昭和廿一年九月廿九日



三二九 受信〇一四六 譯了〇五五五 電一三五五 一三二
至急 譯始〇四一〇六 符

父根戰鬥機報着信艦所

機密第二八一九四五番電

二分ノ一、二

發 母島警備隊司令

一(4)〇八二〇 二二〇度方向ヨリ P B Y I 五 A 一機ノ誘導ニヨリ P I

五一 一七機本島西海岸ヲ北上父島空襲後 P B Y I 五 A 一機本島

上空ニ侵入偵察後南方ニ遁走

回一三〇三 二二〇度方向ヨリ P B Y I 五 A 一機ノ誘導ニヨリ P

一五一 一六機來襲銃爆撃後南方ニ脱走

一五三二 一五三八 一 B ケ五 (五一〇〇) 父通

昭和十年三月廿九日

665

三 戦果 撃墜一機 (P I 五一) 撃破二機 (P B Y I 五 A 一機 P I 五一)

一機)

被害 戦死兵八名 (内一名三〇四設營隊)

三 發射彈數 (一門平均發彈數) 十二種高角砲通常彈四 (一一五燒着彈

二) 三二 (三五) 總發射二七〇 (一七五三)

(H)

三二八 受信二二四七 譯了二三二五 電一三三九八 潛作艦〇

緊急

作

●

吳

●

佐

●

鎮

666

軍令部・大島防備隊・聯合艦隊口
機密第二八一九五九番電

宛 大浦突撃隊司令 第二時攻戰隊司令官 吳潜水戰隊司令官

呂號第六三潜水艦佐世保回航ノ際第三咬龍隊關係基地島物件搭載方取

計ハシテ 尙佐鎮電令作第七號ニ依リ大島咬龍隊母艦トシテ必要ナ

ル設備等ニ宇志和島物件搭載ニ關シ然ルベク御配慮ヲ得度。

通一五二七六 呂一三〇五(一八三〇四)佐二放

石三六林

昭和廿年參月廿九日

昭和廿年三月廿九日

三二九 受信〇〇二五九 譯了〇五〇〇 電一三四四七 作 概
急 詳始〇四〇〇

作

二六根戦闘概報着信場所。三南遣艦隊各口

二六根

667

機密第二八二〇四五番電

六五B 戦闘概報 二十八日

一〇八三〇一〇五〇 單發延一〇機ワシレ地區一〇一〇 單發四ボバレ島

一七一二 單發七ボバネゴ一八〇〇 P 四〇、四カウ地區各銃撃一三三〇

一七三〇 單發各二カウ灣制壓 戰果 擊破 P 一四〇、一被^機害ナシ

ニタルバ入港〇七五〇 P 大型一中型一D 一碇泊〇八〇〇 P 大型九中型三

D 四五九

三モロタイ發進針路北一西大型三三 P B Y 一中型五小型四計四二。

通一五四〇六 呂二B (六一二二、五IC) 二一通 高原 (松井)

三二九 受信開始 〇〇四一五五

譯了 〇四五〇 電一三五二七 作概

昭和廿年參月廿九日

至急

指宿空基地

横濱、鹿屋各空基地



機密第二八二〇四五番電

668

發 十三〇二分隊長

宛 詔問航空隊司令

戦闘速報第三十三號

六月一約三〇機ノ銃撃ヲ受ク 戦果撃墜三機破二機(撃墜確實)被害
被撃墜一機(青木上等飛行兵曹)重傷(重清少尉)銃創地上炎上一機
被弾二機明日奮動機數十機。

通一五三八九

呂一Bケ五(B)佐通

齋木(山中)

昭和廿年三月廿九日

三 二九八 受信二〇三二六 譯始〇〇四八 譯了〇一二〇 電一三四〇〇 作 概

至 急

高 警

作

東 通・聯合艦隊口
海設總部隊各口・一航空艦隊口・支那方面艦隊口・二遣支艦隊口
南西方面艦隊口・海警・佐領・?

機密第二八二〇四七番電

三月二十七日敵機來襲狀況

一〇六四五及〇九四六B一二四各一機高雄西方海面ヲ哨戒北上セリ
三一三〇ヨリ一四四〇ノ間B一二五 一五機P一四七 一四機西海
岸ヲ北上新竹地區ニ侵入飛行場附近ニ投彈後南方ニ脱去セリ
三一二四〇ヨリ一五三〇ノ間P一三八 七機P一五一 八機三群ニ分
レ高雄臺南地區ニ侵入地上銃撃ヲ行ヒタル後南下セリ
戰果ナシ被害損害輕微。

通一五三三二 呂一五〇五 (四七〇五K) 高道 神山 (林部)

0794

669

昭和廿年參月廿九日

三 二二八 受信〇〇三 一四九 譯了〇〇五 〇 電一三四〇九 作概〇

至急



四海上護衛隊ト

軍務局・大島防備隊・佐世保防備隊
鹿兒島在勤武官・山川部隊

機密第二八二二二番電

佐鎮信電令第六〇號

第四海上護衛隊司令官ハ掃一五救難作業艇又ハ母艇ヲシテ機ヲ見テ
ガシヤ島所在ノ道難燈臺員八名ヲ救出セシムベシ。

通一五三二六

天二Bケ六(B) 佐通

竹下(緬川)

三二九 受信〇一五〇

電一三五〇一

航作概本〇

緊急

共符



二遣支艦隊P

次長・九〇一航空隊P・一護衛艦隊P
次官・聯合艦隊P・支那方面艦隊P

機密第二八二一二八番電

發 GEB 參謀長

貴機密第二二一〇三番電返

九〇一空兵力ノ新配備移行ハ次期作戰ニ對處スル爲一應現兵力ヲ
北上セシムルコトニ定メラレタルモノニシテ貴方面作戰上支障ア
ルハ充分認メラルモ貴意ニ應ジ難キ實情ニ付了承ヲ得度

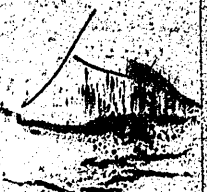
通三三二八

呂一Bケ五

(細川)

昭和廿年參月廿九日

671



三 二九 受信〇五五〇五 譯了〇六一五 電自一三四八八 作 概
譯始〇五三三五

緊 急 遊撃部隊口。吳防戦卜。吳領 佐伯航空隊



海上護衛線口。翌後防備部隊

機密第二八二二三一番電 四分ノ一ニ三四

佐伯海軍航空隊對潛戰團速報（三月二十八日）

一〇五〇ヨリ〇八〇〇迄零式水偵電探機二機ヲ以テ叶埼ノ一七〇度
一〇〇哩鶴見埼ノ一七〇度一二〇哩各々右折側程二〇哩ノ對潛哨戒
實施敵ヲ見ス

日〇九四〇ヨリ一三二〇零式水偵磁探機八機ヲ以テ深島ノ九〇度二〇
哩並ニ一八〇度二〇哩ヲ以テ圓ム正方形海域ノ掃海ヲ實施一〇二七
鶴見埼ノ一六五度三四哩ニ於テ八回ニ亘リ確實ニ敵艦ヲ探知セラル
一五四一六六 一五四二一 於一四（B） 吳領 安川（森）

昭和廿年三月廿九日

海防艦六ト協力中觸接ヲ失シ攻撃スルニ至ラズ

目一二五〇ヨリ一四〇〇迄零式水偵磁探機五機ヲ以テ右海域哨戒敵ヲ見ズ

四一五〇ヨリ一八二〇迄零式水偵磁探掃蕩隊二隊(計一四機)同深

島ノ九〇度三〇漣並ニ一八〇度三〇漣ヲ以テ山々正方形海域ノ掃蕩

實施一六一〇鶴見崎ノ一八〇度四〇漣ニ於テ八回以上敵潛ヲ探知一

七二〇爆撃六番ニ四發精度良好一七三五海防艦四ハ爆雷協同攻撃ヲ

行ヒ制壓中 効果不明。

三二九

受信開始
〇〇二二〇〇

了〇三五〇
電一三四〇六

作 概

昭和廿年參月廿九日

緊急

作

二三根戰團概報着信處所

機密第二八二二三六番電

673

二十三特根戰團概報第四七號

二十八日一八四五B一二四 二機「マカツサル」半島南東ヨリ浸入

一九一〇港外航行中ノ船團W一一W三四（襲撃進部隊搭載）ニ對シ

投彈機銃掃射一九三五南東ニ撃退セリW一一被彈沈没救助中

三二〇四〇B一二四 一機南東ヨリ浸入「マロス」飛行場東方ニ投彈

二一〇〇北東ニ去ル戰果被害ナシ。

通一五三八七 呂一Bラ十八（六一二二二・五〇）二一通

明比（渡瀬）

天

三二九

開始〇六三〇

〇六四〇

〇七三〇

〇八二〇

〇九一〇

〇一〇〇〇

昭和三十九年三月廿九日



大津第一部隊、佐領、鎮海警備府、一護衛隊除
門可在勤武官(電信所)

吳 鎮、吳 防 戰

機密第二八二二五三番電 三分、二三三

674

一、現在迄判明セル敵機雷爆發狀況次ノ如シ

(イ) 蓋井北東方海面(巨岸一〇〇〇乃至三〇〇〇)二九

(ロ) フタオイ島南西海面二

(ハ) 蓋井南東海面二

(ニ) 六連及東岸四(三〇〇〇米以内)六

(ホ) 吉見エビラ山南西海面(三〇〇〇米以内)六

(ヘ) 吉野北方海面(一〇〇〇米以内ヨリ)六連アイ島間落下傘附約一

〇個浮流ス(陸軍見張報)

一六四四六

於十四(日)吳通

日高(松山)仙波(上)

- (イ) 警隊 一曳船一損傷 (吉見力毛島南方) 一月以上要修理
- (ロ) 掃津丸浸水 (壘井島南西)
- (ハ) 機帆船數隻沈没 (若松港外)
- (ニ) 警隊員輕傷四。

(2)

三二九 受信一九二五 譯始二〇三〇 譯了二一三〇 電一三七九三 作 概

昭和廿年參月卅日

揚子江方面根

支那方面艦隊

總長・上海方面根
揚子江部隊

機密第二八二三五四番電

受報者 上海在勤武官 漢口在勤武官 南京在勤武官

揚子江方面特別根據地隊戰圖概報第二一號（三月二十八日）

自一三五五至一四三八 P 一五一延四北岸及河口方面銃擊被害海軍側

中型砲艇一隻航行不能戰死一行衛不明二重傷二輕傷二

三百二一四〇至二一五〇 B 一二四 一機漢口市街爆擊（中爆彈十數發

（被下）海軍側被害ナシ。

通一五八三五 口一〇七五（一四九三〇KG）上海 村尾（本 日）

675



三二九 受信 〇〇八四五〇 譯了 〇九〇〇 電自 一三五五三 作概

東京通信隊・聯合艦隊口

高雄警備府

一航空艦隊口・五航空艦隊口・支那方面艦隊口・二遣支艦隊口
海上護衛總部隊各口・佐世保鎮守府・臺灣航空隊・南西方面艦隊口

機密第二九〇〇四〇番電 三分ノ二二三

敵機襲來狀況 (三月二十七日 〇九〇〇ヨリ二十八日 〇九〇〇)

一〇九三〇ヨリ一〇三〇ノ間 B-124 一機東海岸ヲ南下

二〇九四〇ヨリ B-24 一機西岸ヲ北上北方ニ脱去

三一一三〇 B-125 一機 P-147 一四機琉球嶼南方ヨリ西海岸

ヲ北上新竹地區ニ侵入飛行場ニ投彈第一四四〇迄ニ逐次南方ニ脱去

ケリ

四一二四〇 PBM-1 機 P-138 一機南方ヨリ岡山地區ニ侵入一四五〇迄

通通通 五五四二八 五五四二七 五五四二三 呂一日々五(四五七三五) KCニ高 通 菅原(増田) 七尾 (1)

昭和廿年參月卅日

二南方ニ除去

五 一三〇〇ヨリ一四三〇ノ間 P151 八 P138 四南方ヨリ

侵入 P138 ハ臺中地區 P151 ハ高營地區ヲ夫々銃撃後除去

六 一三四五 P124 一三紹角北方ヨリ侵入東海岸ヲ南下一四三

〇除去 P1

七 一五三〇 P138 二南方ヨリ岡山地區ニ侵入投擲ヤズ除去 P1

八 一六二〇 P134 一機馬公上空ヲ南下一八三〇鷲嶺鼻南方ニ

除去

九 一七四〇 火燒島北東敵機二四機南下ス一機種及發ノ行動不明一

一〇 〇四〇〇 PBM 一機高雄西方海上南下ス

一一 戰車 ナシ

戦車 不明

(2)

三 二八

受信開始 〇〇五二〇〇
〇八三〇〇

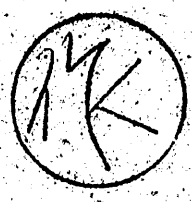
譯了 〇八五三
電一三五三八

昭和廿年 參月廿九日
航作 概本

作戰緊急

佐世保空基地

指宿、大村各航空基地



海上護衛總口

聯合艦隊口・五航空艦隊口・第四海上護衛隊口
第一遊撃部隊・第一護衛隊 高雄司令部 佐領

67

機密 第二九〇二一六番電

九五 特令作第 一〇〇號

一 省隊電令作第九九號ノ對潛警戒ヲ特令スル迄一時中止セヨ

二 敵機動部隊九州區國ニ近接セル算大ナリ「イ」「オ」區哨戒ヲ強化

セヨ 〇二一六

「東通註」(原電誤作成ニ依リ遲延ス)

還(五五)一六 於(四) (B) (佐世保) 何波(吉) 日()

昭和廿年參月廿九日

三二九 受信 ○八二七〇 譯了 ○八五〇 電一三五〇六
保安緊急 譯始 ○八二七〇

航作 概本 ○

傍

聯合艦隊口・鹿屋航空基地
松山航空基地
吳 鎮・二艦隊口

678

機密第二九〇六四六番電

發 三四三空司令

宛 G F、三 A F 參謀長

先般空襲ノ際モ煩發セルコトナルガ今期モ哨戒ノ爲當基地ヲ離陸中
ノ戰團機ニ對シニ F ノ猛射ヲ受ケニ機墜サレタリ少ク機數ト搭乘
員ヲ此ノ如クコトニヨリ失ウハ遺憾至極ナリ各隊ヨク落着ト行動ス
ル様嚴達アリ度。

通一五四七三 才一四 (B) 木更津

長尾 (塩田)

人

作戰緊急

三二九

開始一〇四九

丁一一五五

電一三六〇五

航作概本

昭和廿年參月卅日

百里原航空隊



五航空艦隊。木更津、國分第二、明治各航空基地
三航空艦隊（鹿屋航空基地）

横、吳、佐各鎮。阪警。一〇一航戦。松山航空基地

機密第二九〇七〇六番電

發第六〇一航空隊司令

當隊機密第二八一三二〇番電ニ依ル飛行機隊ノ移動ヲ本日取止テ明
治基地ヲ中繼トシテ敵機動部隊ノ攻撃準備ヲテヌ一二〇〇以後發進
可能ノ見込。

通一五五二五 呂一Bケ五（E）木空基地 村尾（小澤）

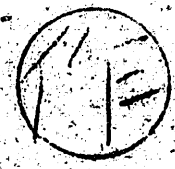
三二九
作戰緊急

開始〇〇九四七

了了一〇二七

電一三五一九

航作概本〇



一〇航空艦隊

鹿屋航空基地

七基地航空部隊作戰命令着信艦所・一機動基地航空部隊

機密第二九〇七〇八番電

七PGB司令作第二〇三號

一〇二彩雲(木更津ニ殘留ノモノ)進出基地ヲ松山ニ改メ三四三空司令ハ右兵力ニ對シ基地任務ヲ擔當スベシ。

通一三四九二

呂一Bラ十八(七八七五KG)一PGB放

片山(松山)

昭和廿年參月廿九日

680

三二九 受信一六〇〇八 譯了一七一〇 電一三七〇四 作 概

緊急 第一八 警 備 除



二八時根戰鬥概報着信艦所

機密第二九〇七四六番電

マノグワリ戰鬥概報 二十八日

一〇〇〇單發二機「アソグダイ」附近ヲ銃撃ス

三東(西)行敵機〇八〇〇一 一三五 四發一(〇) 双發三(一一)

單發〇(一三) 一三一 九一 一七二七 四發〇(一) 双發三(一) 單

發〇(一一)

三一〇三五魚雷艇一隻西行一二二〇上陸用舟艇二隻西行。

通一五六五九 天一Bケ五(一八三六七五KC) 一一通 遠藤(榛 澤)

昭和廿年參月卅日